



NATIONAL AINU MUSEUM

vol.003
2021 FEBRUARY

アヌコロ アイヌ イコロマケナル ソソコ 国立アイヌ民族博物館 ニュースレター アヌアヌ

ANUANU



収蔵資料展

イコロ ー資料にみる素材と技ー

基本展示の注目ポイント③
「ウレシパ 私たちの暮らし」

探究展示 テンパテンパ①

博物館Pickup!

国立アイヌ民族博物館第1回テーマ展示

収蔵資料展

イコロ

—資料にみる素材と技—

イコロとはアイヌ語で宝物を意味します。当館では収蔵資料をイコロと呼んでいます。これまで、研究員・学芸員それぞれが取り組んできた研究成果と、当館で導入した科学分析を用いたアイヌの生活用具に関する新たな研究の試みを、資料とあわせて紹介します。

会期 **2021年5月23日**◎まで

2期/2021年2月 2日◎～3月21日◎

3期/2021年3月30日◎～5月23日◎

国立アイヌ民族博物館2階 特別展示室



これまでのアイヌ文化伝承活動の中で、衣服や装身具などの民具複製が行われてきました。博物館等に収蔵されている資料を参考にした民具製作や複製事業では、伝承者、製作者、博物館が一体となって資料の熟覧を行い、製作技術について研究や議論を重ね、原資料を忠実に再現する試みも行われました。

今回の展示では、原資料と複製された衣服を並べ、これまでの複製事業について紹介します。



センカキ・アットゥシ
—布(木綿・樹皮)—

ウツシ
—漆—

漆器は、主に本州方面との交易などによって入手したものです。その中には和人による製作でありながらも、アイヌ民族が使うことを前提としたものも見受けられます。例えば、儀礼に使うタカイサラ(天目台)やトゥッキ(杯)、イクパスイ(酒を捧げる祭具)には、同じ模様構成で組み合わせられているものもあります。

儀礼で使う漆器は確かに交易品かもしれませんが、そこには儀礼という大事な場面でタカイサラとトゥッキ、イクパスイをひとそりで用いるアイヌ民族の用い方が見られます。



シキナ

—ガマ—

ござは、日常において敷物にするほか、出入口や窓に掛けるときなどにも用いてきました。特に儀礼では、模様入りのござを神聖な場を設えるために用いてきました。

この展示は、つくり方の解明、染色の試み、素材感がわかる標本、露出展示から成り立ちます。露出展示のござと花ござは、製作者、製作地、製作年がわかる貴重な資料です。個人の技法の伝承経路、地域差、歴史的変化などについての調査研究や展示、資料復元を行う際に必要な情報であるため、将来にわたって価値の高い資料といえます。



ニ

—木材—

工芸品として人気の高いイタ(盆)やアイヌ民族が男女問わず使用しているマキリ(小刀)について、実物とCT画像をパネルで展示しています。イタについては、表面だけ彫刻されたもののほかに、両面に彫刻がされているものも選びました。マキリは、さやの素材がニ(木材)のみならず、樹皮や鹿角が使用されているものも紹介しています。ぜひ実物とCT画像を見比べてみてください。

カニ

—金属—



アイヌ民族は交易によってさまざまな金属製品を入手し、身体や宝壇を飾る装飾品として利用してきました。銅や銀、真ちゅうなどの多彩な金属素材でつくられたニンカリ(耳飾)やタマサイ(首飾)の先端を飾るシトキ、装飾した金属板を組み合わせることで外観を飾るイコロ(宝刀)など、実際の資料とともに科学分析による素材や内部構造の調査成果を展示しています。

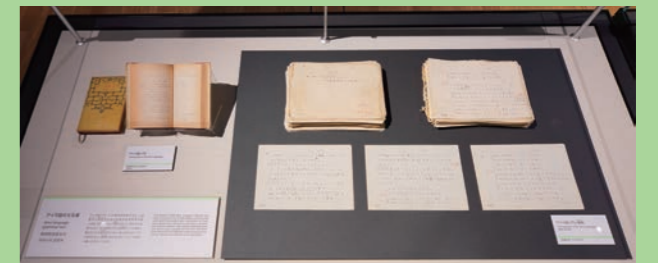
金属製品は、製作の背景や入手に至る交易の様子を知る手掛かりが含まれていると推測されます。素材やつくりなどの科学的な調査の進展が期待されます。



カンピ

—紙—

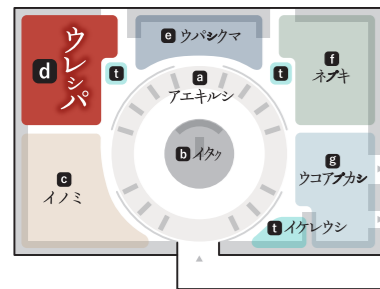
知里真志保著『アイヌ語入門-とくに地名研究者のために-』とその原稿など展示しています。知里のアイヌ語表記法は、長年にわたる研究の中で工夫され、変化していたことがこれまでに指摘されています。アイヌ語表記に目をつけて原稿と出版物を見比べると、ローマ字表記の「tu」にあたる音を原稿のカナ表記では「ツ」としているのに対して、出版物は「ト」になっているなどの違いがあることがわかります。この原稿から、知里の表記法の変遷をさらに探っていくことができるかもしれません。



基本展示の注目ポイント③

ウレシバ 私たちの暮らし

常設の基本展示室は、私たちアイヌ民族の視点で、ことば、文化、歴史について紹介しています。数回にわたって、それぞれのテーマの見どころをお届けします。



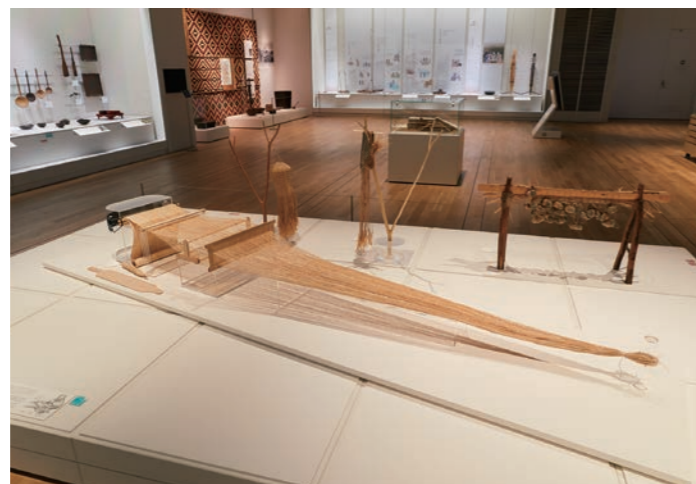
基本展示における「ウレシバ」の役割

衣食住の生活道具を中心として、人の一生の中で行われるさまざまな習わしなど、私たちアイヌの伝統的な暮らしについて展示しています。各地の歌や踊りを映像で楽しむだけでなく、伝承に携わる人びとの取り組みも紹介しています。ウポポイ内で体験できるいろいろなプログラムとあわせて、伝統を継承しつつ新たな創造を続けるアイヌ文化に触れてみてください。

（新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、映像プログラムの一部が休止となっている場合があります。）



研究員のおすすめポイント
ウレシバとプラザ展示の衣服と装飾品は、2カ月ごとに展示替えをしています。多彩な布や糸の素材、細やかかつ大胆な模様や刺しゅうの技を、ぜひご覧ください。（研究員 宮地鼓）



いまに息づく装い

儀礼のときなどには、刺しゅうで華やかに飾った衣服を身に着けます。かつて縫製や刺しゅうは女性の大切な手仕事の一つでした。伝統的な衣服のほか、現代のつくり手による作品も展示しています。さらにさまざまな種類の装飾品とあわせて、アイヌの服飾文化を紹介します。

織りと編み

木や草の皮でつくった糸から生まれるいろいろな織物、編物があります。ここでは、衣服や編袋づくりの道具を展示しています。それぞれの製作過程だけでなく、用途によって素材や太さなどが異なる糸の種類にも注目してみてください。



受け継がれる食文化

調理具や食器には、加工しやすい素材が使われ、模様が彫られているものもあります。また、普段の食事と儀礼の食事や供物にも違いがあります。映像で、受け継がれてきたオハウ(汁物)やラタツケ(混ぜ煮)など5つのメニューの調理方法を紹介しています。



住まう

神窓や炉の周りで使う道具など、伝統的なチセ(家屋)について紹介しています。ARで白老地方のチセのつくり方やしきたりも体験できます。そのほかに、資料を基に再現した樺太のトイチセの模型もあります。ウポポイ内には復元されたチセもあるので、見比べてみてください。



受け継がれる芸能文化

私たちに伝わるさまざまな歌や踊り、口琴、弦楽器などの楽器があります。映像では、各地で伝承されてきた踊りを紹介しています。例えば、バツキ/バツ踊り(帯広)、シタカクイ/情景の踊り(様似)など、地域に特色のあるものも多くあります。壁面に大きく映し出されている鶴の舞も、阿寒(釧路市)、静内(新ひだか町)、平取、帯広の各地で違いがあります。



人の一生

人が生まれてから亡くなるまでの一生を通じて、さまざまな慣習があります。子どもの遊びは狩りや模様の練習になるなど、大人になるための準備でもありました。おもちゃも展示しているので、どのように使ったかなどを想像してみてください。そのほか魔除けやまじないの道具の紹介もあります。

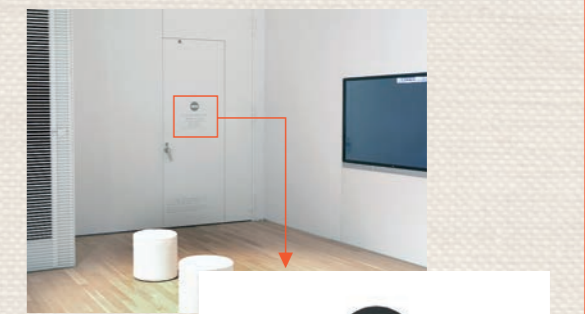
見て見て! 館内サイン

ウポポイのアイヌ語表示について紹介します。

モンライケ ウタラ パテク

関係者以外立入禁止

日本語では「関係者以外立入禁止」と漢字が並ぶこの表示。アイヌ語では、モンライケ「働く」、ウタラ「人びと」、パテク「～だけ」、つまり「職員だけ(Staff Only)」と表現しています。方言によっては、ネブキが広義の「働く」、モンライケが「山仕事をする」という意味で使い分けられることがありますが、モンライケが包括的に「働く」という意味を表す方言も多くあります。旧一般財団法人アイヌ民族博物館における祈詞に「職員」をモンライケ ウタラと表現した記録があるということから、このように表現することになりました。



アイヌ絵

蝦夷国風図絵 小玉貞良

アイヌ絵は、アイヌの生活風俗を表現した絵画の総称です。狭義の概念では、他民族の視点から、主に日本の近世に、和人がアイヌの生活や文化などを画題として描いたものを指します。この頃、和人による蝦夷地支配の体制が確立し、見知らぬ土地とそこに暮らすアイヌに対する関心が高まりました。また、調査などで蝦夷地を訪れる知識人が増え、文章に絵図を挿した紀行や報告書が編さんされ、視覚的効果の高い絵画は情報源として需要が増えていきました。

この時代のアイヌは文字や絵を記すことがなかったため、アイヌ文化の面からも、その地域や時代を復元的に考察するための貴重な史料になる場合があります。そのため、アイヌ絵では、絵画的な技術の高さや観賞性よりも、民族誌としての精度の高さが最も重要であると考えます。誤った情報や過度に誇張した表現では、見る者に不適切な認識を与える恐れがあるからです。

今回の収蔵資料展では、18世紀ごろから19世紀にか

けて、松前で活躍した小玉貞良、早坂文嶺、奥平鳳蘭、箱館の平沢屏山ら、実際にアイヌのくらしや生活用具を見聞きしたと考えられる絵師たちの作品を紹介します。

小玉貞良は1680年～90年ごろに松前に生まれ、18世紀中ごろに活躍した絵師で、初期のアイヌ絵の第一人者といえます。アイヌの風俗画を数多く制作したほか、松前城下やニシン漁でにぎわう江差浜を描いた屏風なども製作しています。

貞良が描く熊送り儀礼、漁労等の場面を見ると、人物は表情豊かで躍動感あふれる動きで、色鮮やかに描かれます。アイヌの衣服や生活用具、交易の品々などは、素材や文様など、それぞれつまびらかに描き分けていることがわかります。これらは、蝦夷土産として、松前から各地に伝えられていきました。

本作はフランスで発見され、収蔵資料展で初公開しています。

(資料情報室長 霜村紀子)

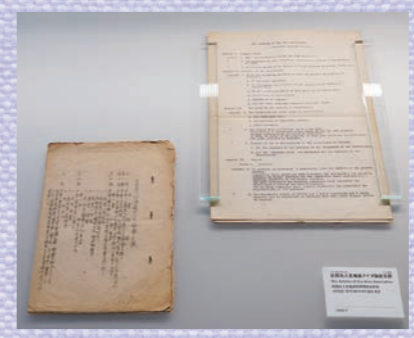


「蝦夷国風図絵」小玉貞良

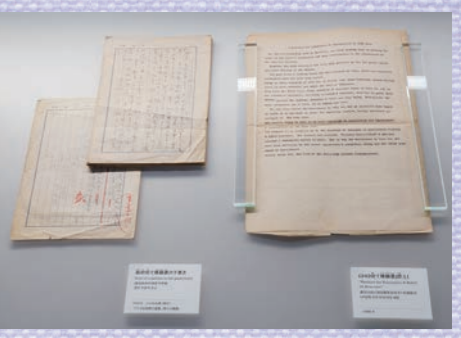
ここに注目! 私たちの歴史

北海道アイヌ協会は、2021年に設立75周年を迎えます。これにあわせて同協会の最初の手書きの定款と、アイヌの「甦生援護」に関する嘆願書の下書き(小川佐助筆推定)を展示しています。1946年2月24日に北海道アイヌ協会の設立総会が静内町(現・新ひだか町)公民館で開催され、北海道各地から多くのアイヌが参加しました。同じ1946年に書かれた嘆願書は同化政策による生活への長年の影響を概観し、国がポツダム宣言を受け入れたことに言及し、民主化を歓迎する中でアイヌの生活向上を訴えています。日本語と英語に多少の違いがあり、願いが相手に伝わるように工夫されていることがわかります。

(アソシエイトフェロー マーク・ウィンチェスター)



社団法人北海道アイヌ協会定款(1946年)



政府宛て嘆願書の下書き(1946年)

展示期間：2021年1月5日(火)～2月28日(日)
 資料名：社団法人北海道アイヌ協会定款
 「アイヌ民族甦生援護ニ関スル嘆願」小川佐助筆(推定)
 製作年：1946年

イケレウシテンパテンパ

探究展示テンパテンパ

「テンパテンパ」は、アイヌ語で「さわってね」の意味。体験を通じてアイヌ文化にふれることができる。大人も子どもも楽しめるコーナーの紹介です。

サケのアイコンがついたt.1エリアと、シカのアイコンがついたt.2エリアには、「サケの料理」や「シカの利用」、ジオラマなどなど…18の体験ユニットがあります。



18の体験ユニット!



基本展示室の3カ所にある「テンパテンパ」

それぞれのユニットの体験は周りのテーマ展示と関連していて、その展示には探究展示のアイコンが掲示されています。体験で興味があれば、関連する展示にも行ってみましょう!

…と、ここまで紹介してきましたが、新型コロナウイルス対策のため、このような触る展示は現在のところ体験できません(2021年2月現在)。とても残念ですが、博物館の教育グループでは、これらの体験ユニットを紹介する「かわりにテンパテンパ」を随時行っています。見かけた際は、ぜひお声がけください。



教育グループのスタッフ

ご紹介いたします!

キツネのアイコンがついたt.3エリアでは、靴を脱いでくつろぎながら、絵本を読んだり、ぬいぐるみや植物標本を観察して動植物とアイヌ文化の関わりを調べたりすることができます。

くつろぎながら...

次号からは、それぞれの体験ユニットを紹介! お楽しみに!!

ウポポイへの入場は 事前予約制です。

新型コロナウイルス感染拡大防止のための
取り組みについて、ご理解とご協力を
よろしくお願いいたします。



STEP 1

博物館への事前予約

博物館に入館する場合は、必ず事前予約
をお願いいたします。

当日、予約なしで博物館への入館はでき
ませんのでご注意ください。

国立アイヌ民族博物館では、館内にいる
人数を常時200人程度に保つため、1時
間刻みの予約制としています。オンライン
予約で「博物館 入館整理券」を発行し
てください。

オンライン予約の状況を
ご確認後に、
ウポポイ入場券の購入を
お勧めしています。

博物館への予約は
こちら



<https://www.e-tix.jp/nam/>



STEP 2

入場券の事前購入

入場券	料金 (税込)	入場日 の予約
1日券	大人 1,200円 高校生 600円	オンライン購入 時に日付を指定
年間 パスポート	大人 2,000円 高校生 1,000円	入場日予約券 (無料)を発行。 オンライン予約 で日付を指定
入場無料	中学生以下 障がいのある方、 その介助者 (1名)	

1日券購入は
こちら

年間パスポート
購入はこちら



ウポポイから入場に関するお知らせ

ご来場の際には、新型コロナウイルス感染拡大防止のための以下の取り組みについて、
ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

- ウポポイでは、入場日の予約制(日付指定)を導入しております。ウェブサイトの「入場券等のお求めと来場日の予約について」により、必要な入場券等を入手の上、ご来場ください。
- 国立アイヌ民族博物館の展示室の観覧を希望する方は、別途、オンラインによる入館日時の予約が必要です。
- 博物館以外の施設では、当日、整理券を配布するものがあります。
- ご入場の際には、マスク着用、ソーシャルディスタンスの確保及び連絡先記入票のご提供(博物館入館日時を予約された方を除く)等についてご協力をお願いします。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、プログラム内容等の一部変更、中止している場合があります。ウェブサイト等で事前にご確認ください。

国立アイヌ民族博物館からのお知らせ

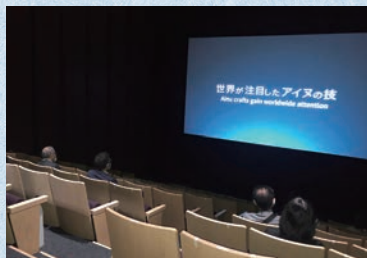
ホリデーイベント開催中!



週末に「ホリデーイベント」を開催して
います。1月は糸より体験やタマサイ(首
飾)のミニチュアづくり、読み聞かせなど
を行いました。イベント内容は週替わ
り。詳しくは、当館ウェブサイトでご案内
しています。

シアターの映像作品が多数受賞!

シアターで上映している映
像プログラム「世界が目じ
めたアイヌの技」が、北海道映
像コンテスト2020最優秀
賞、全映協グランプリ2020
優秀賞、映文連アワード
2020優秀企画賞を受賞し
ました。注目度の高いこの
作品を、ぜひご覧ください。



アイヌ文化でつながるネットワーク(愛称ブンカラ)の参加館募集中

アイヌの歴史・文化などに関する情報の共有や利活
用のほか、共同研究などを行うため、国立アイヌ民族
博物館と国内外の博物館、美術館や研究機関等との
独自のネットワーク事業を開始しました。随時入会
を募集しています。詳しくは当館ウェブサイトをご覧
ください。

※愛称のブンカラは、アイヌ語でブドウやサルナシなどの植物の蔓(つる)
のことを意味し、本事業の「つながり」や「広がり」から連想した名称です



お問い合わせ

公益財団法人 アイヌ民族文化財団(ウポポイ内)
住所:〒059-0902 北海道白老郡白老町若草町2丁目3番2号
電話:0144-82-3914 FAX:0144-82-3685
メール:info@ainu-upopoy.jp

ウポポイに関する詳しい情報はウェブサイトをご覧ください。

ウポポイ 検索

<https://ainu-upopoy.jp/>



<https://nam.go.jp/>

※アヌアは、アイヌ語で「もしもし」の意味です